THE CANON STORY

2022/2023

世界は無限に広がっていく

新しい視点でものごとを見つめ、より鮮明に理想を描くことを可能にするために。
キヤノンはイメージング技術を磨き、新たな視界を社会に提供してきました。
世界が大きく変わるいま、イメージング技術はその可能性を無限大に広げています。
キヤノンは自らも進化を続けて、医療、セキュリティ、商業印刷、産業機器といった幅広い領域で活躍し
まったく新しい姿へと生まれ変わり、人や社会の可能性を広げていきます。

企業理念

共生

キヤノンの企業理念は、「共生」です。
私たちは、この理念のもと、
文化、習慣、言語、民族などの違いを問わず
すべての人類が末永く共に生き、共に働き
幸せに暮らしていける社会をめざします。
しかし、経済、資源、環境など
現在、地球上には共生を阻むさまざまな課題があります。
キヤノンは、共生に根ざした企業活動を通じて
これら課題の解消に積極的に取り組んでいきます。
真のグローバル企業には、顧客、地域社会に対してはもちろん
国や地域、地球や自然に対してもよい関係をつくり
社会的な責任を全うすることが求められます。
キヤノンは
「世界の繁栄と人類の幸福のために貢献していくこと」をめざし
共生の実現に向けて努力を続けます。

キヤノンの企業DNA

歴史を刻み、発展できた背景には、脈々と受け継がれるキヤノンの企業DNA「人間尊重」「技術優先」「進取の気性」があります。ベンチャー企業として始まった進取の気性と、技術による差別化をめざす姿勢は、深く浸透し、つねにキヤノンは社会に新しい提案をしてきました。それを支えてきたのが実力主義や健康第一主義などの人間尊重の姿勢です。今後100年、200年と発展し続けるために、キヤノンはこの企業DNAを次の世代にしっかりと継承していきます。

三自の精神

キヤノンの行動指針の原点。それが、創業期から受け継がれる「自発・自治・自覚」の「三自の精神」です。企業DNAを伝承しながら、真のグローバルエクセレントカンパニーをめざすキヤノンにとって、いまも最も重要な指針となっています。

自発　何事にも自ら進んで積極的に行う
自治　自分自身を管理する
自覚　自分が置かれている立場・役割・状況をよく認識する

社会の変化に先んじて、自ら変身し
真のグローバルエクセレントカンパニーへと
力強く前進していきます

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、世界は大きく揺さぶられ、人々の価値観やライフスタイルも大きく変化しつつあります。テクノロジーの進歩はめまぐるしく、AI、IoT、クラウド、5Gなどの技術が台頭し、知恵と技術の融合によるイノベーションは社会を変える源泉として止まることなく世界を動かし続けています。

キヤノンは2021年に、5カ年の中長期経営計画「グローバル優良企業グループ構想フェーズ VI」をスタートさせ、プリンティング、イメージング、メディカル、インダストリアルの4つの産業別グループにグループ会社を含めて組織を再編成し、事業の拡大を図っています。より複雑化・多様化する社会課題の解決が求められるなか、グループそれぞれがM&Aなどを交えながら、より快適でより豊かな生活、ビジネス環境、より安心・安全な社会を支える新たなイノベーションを創出してまいります。さらに、全体最適を見据えた本社機能の強化により生産性の向上を図る一方で、幅広い分野で培った技術をベースにキヤノンの将来を担う新たなソリューションの事業化も加速していきます。

変化は進歩であり、変身は前進です。キヤノンは、創業以来のDNAである「進取の気性」「三自の精神」を持って、これからも、企業理念「共生」をもとに永遠に技術で貢献し続け、世界から親しまれ、尊敬される真のグローバルエクセレントカンパニーに向け、変身と挑戦を続けてまいります。

みなさまにおかれましては、温かいご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

キヤノン株式会社　代表取締役会長兼社長 CEO

御手洗冨士夫

グローバル優良企業グループ構想

Phase VI 2021-2025年

世界で親しまれ尊敬される、真のエクセレントカンパニーをめざして。キヤノンが大きな変革と成果を追求する中長期経営計画「グローバル優良企業グループ構想」は、1996年にスタートしました。
2021年からは、フェーズ VIをスタート。「生産性向上と新事業創出によるポートフォリオの転換を促進する」を基本方針にさまざまな活動を推進しています。

主要戦略 1

産業別グループの事業競争力の徹底強化

- 製品別事業部制から親和性のある4つの産業別グループへ全社組織を拡大再編成
- グループ視点でそれぞれの技術力や事業領域を再度見直して組織を再強化
- M&Aなども積極的に行いながらグループでの開発や生産の強化を図り、新事業を創出

プリンティンググループ

デジタルプリント技術と世界規模の販売・サービス網を持つ強みを生かし、DX時代のプリンティングソリューションでオフィス・ホームプリンティングの世界No.1をめざします。さらに、商業印刷事業の拡大、産業印刷事業の確立を図ります。→ P11 事業のご紹介

イメージンググループ

従来のカメラ産業から光学産業へと大きくフィールドを広げ、事業を拡大します。ミラーレスカメラ世界No.1の地位を確立する一方で、ネットワークカメラの領域拡大、XRなど新しい映像体験市場の取り込み、モビリティ分野への事業参入を実現します。→ P15 事業のご紹介

メディカルグループ

CT、MRI、超音波診断装置など主力製品において、商品競争力と米国を中心とした販売網を強化し、CTでは世界No.1、その他画像診断装置は世界トップグループをめざします。さらにヘルスケアIT、体外診断事業を拡大していきます。→ P19 事業のご紹介

インダストリアルグループ

旺盛な半導体・ディスプレイ生産設備への需要に対し、製造装置の生産体制拡充と顧客サポート体制の強化を図ります。また、次世代製造技術のナノインプリントリソグラフィの開発をさらに推進して早期商品化をめざします。→ P23 事業のご紹介

フロンティア事業

これまで培ってきたキヤノンのあらゆる技術をベースに、ライフサイエンス、マテリアル、ソリューションの領域で事業化を探索。選択と集中で強力な新規事業を立ち上げていきます。

主要戦略 2

本社機能の徹底強化によるグループ生産性の向上

- 産業別グループの成長戦略を支えるために本社機能を強化し、全体最適を推進

キャッシュフロー経営の徹底

大型投資や経済危機に備え、キャッシュフロー経営を再徹底し、M&Aにともなう借入金の返済を進めて強固な財務体質のさらなる安定性を確保します。

グループ一丸となった原価低減活動の推進

開発・設計・調達・製造現場が連携して、自動化や内製化をさらに強化し、コストダウンを推進します。また、全世界最適調達網の整備を進める一方で、ロジスティクスの全体最適化を図ります。

より競争原理の働く人事体制の構築

雇用や就労形態の多様化に合わせ、人事制度を拡充して一人ひとりの生産性向上を図る一方、事業ポートフォリオに沿った人材を育成する教育と社内転職を推進し、「適材適所」を実現します。

新製品開発のためのイノベーションへの注力と激変する経営環境への対応

各産業別グループの収益に貢献する本社部門の研究開発をさらに強化するとともに、脱炭素や経済安全保障など、経営環境の変化に対して全社横断でいち早く対応していきます。

Phase I 1996-2000年

「全体最適」と「利益優先」への意識改革を図り、キャッシュフロー経営を徹底。事業の選択と集中、生産革新や開発革新など、数々の経営革新を始めました。

Phase II 2001-2005年

「全主力事業世界No.1」を掲げて、製品のデジタル化を一気に推進し、競争力強化に努めながら、全世界のグループ会社の体質改善を進めました。

Phase III 2006-2010年

現行事業の強化、新規事業拡大など、新たな成長への戦略を進める一方で、サプライチェーンマネジメントの徹底やIT革新を実行しました。

Phase IV 2011-2015年

規模の拡大を追求する経営方針の転換を図り、財務体質を強化するとともに、M&Aも実施し、新たな成長エンジンとなる事業基盤の再構築を進めました。

Phase V 2016-2020年

新たな成長に向けて4つの新規事業の拡充に挑み、「戦略的大転換」の第一段階となる事業ポートフォリオの入れ替えを完了しました。

経営目標 (2025年)

売上高	4兆5,000億円以上
営業利益率	12%以上
純利益率	8%以上
株主資本比率	60%以上

前提　USD=¥105　EUR=¥120

プリンティング

オフセット印刷にするか、デジタル印刷にするか選ぶ必要はなくなりました

品質に厳しいお客さまが選んでいたオフセット印刷

グリーティングカード、チラシ、ポスター、パンフレットの企画・印刷から配送まで行うKampert-Nauta社は、オランダのオンライン印刷をリードする商業印刷プロバイダーです。オンライン印刷は、Kampert-Nauta社のビジネスの中心で、企業やプリントショップのお客さまなどからオンラインで注文を受け、オフセット印刷機とデジタルプロダクションプリンターを使い分ける「ハイブリッド」の印刷を行っています。

さらなる事業の拡大と効率化のためにKampert-Nauta社が導入したのは、独自の自動印刷ジョブ管理システムでした。オンライン注文の納品日時、印刷の量、印刷する紙（メディア）の種類、印刷の用途にもとづき、オフセットかデジタルかを自動で判断するシステムですが、前提として、オフセットとデジタルの仕上がりに差がないことが大切です。Kampert-Nauta社はデジタル印刷の今後の可能性を高く評価していた一方で、デジタル印刷が、これまで主流だったオフセット印刷と遜色がないことを確認し、どちらで納品しても注文したお客さまに満足してもらいたいと考えていました。

オフセット同等の品質でデジタルならではのメリット

Kampert-Nauta社から、画質がオフセットに匹敵すると高く評価されたのが、2020年にキヤノンプロダクションプリンティングが製品化したインクジェット方式のデジタルカットシートプリンター「varioPRINT iX3200」です。デジタルプリンターでありながら、さまざまな紙（メディア）にもプリントでき、何枚プリントしても画質は安定。調整の時間や刷り直しは少なくなりました。さらに、オフセット印刷のジョブをデジタル印刷に集約させることで、注文から発送までの一連の流れがスムーズに。オペレーターによる作業も大幅に削減され、セットアップやジョブの切り替え時間が短くなり、締め切り間近でも注文を受けることが可能になりました。

印刷を注文するお客さまにとって、オフセット印刷かデジタル印刷かは問題ではありません。Kampert-Nauta社は、さらに増え続ける、短納期を求めるお客さまのニーズに対し、高い印刷品質と合理化されたワークフローを両立しながら応えることに成功。デジタル印刷の真価がますます発揮され始めています。

（上）手作業が削減されたKampert-Nauta社の印刷工場
（左）装飾加工機との連携により完成したグリーティングカード
（右）印刷クオリティを最終確認

静音化・高速スキャンなど複合機の本質の機能を充実させた「imageRUNNER ADVANCE DXシリーズ」

プリンティンググループ

ニューノーマル時代に合わせて プリンティングを自在に、自由に

価値あるプリントを、「必要な時に必要なだけ」

ニューノーマルと呼ばれる時代に突入し、在宅やコワーキングスペースなどのリモートワークが広がって、オフィスで働いていた人びとのくらしや働き方は、よりさまざまな形に変化しています。

プリンティングにおいても、働く場所にとらわれずに印刷したいというニーズが高まる一方、ものを考える、共同作業をする、生活を楽しむといった紙がもたらす価値は、変わることはなく人間の知的な活動を支えています。

いちから開発した電子写真とインクジェットというデジタルプリンティングの２大技術を持つキヤノンは、ITの進展によって社会がクラウドコンピューティングへの移行をさらに進めるなか、セキュリティ技術とコンテンツオンデマンド技術をさらに強化。さまざまなコンテンツをどこからでも即座に、安全にプリントできる「オンデマンドプリンティング」を提供していきます。

共同作業では「紙」が価値を発揮

オフィスのデジタルトランスフォーメーションをリード

多くの業種において、オフィス業務のデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速しています。キヤノンはDX時代の本質をとらえ、DXの第一段階となる紙文書の電子化において、静音化とスキャンの高速化を同時に実現するネットワーク複合機を展開。さらに、複合機とクラウドサービスをシームレスに一体化したサービスも充実させるなど、お客さまの業務を省力化、高度化して新しい価値を生み出すDXを推進しています。

オペレーション画面から直接クラウドへアクセス

テレワークで活躍するインクジェットプリンター

働く場所にとらわれず、快適にプリント

在宅の時間が増え、家庭でのプリンターの利用が広がっています。キヤノンはオフィスで培ったプリントマネジメント技術を発展させ、家庭でもセキュリティに配慮したプリントを実現。大容量のインクジェットプリンターや小型のレーザープリンターなどのラインアップをそろえ、プリンティング環境の充実に力を注いでいます。

両面同時読み取りにより高速スキャンが可能なレーザー複合機

超高速で高画質の印刷を行う連帳プリンター

商業印刷で進むデジタルプリントをもっと多彩に

書籍やカタログ、ポスター、帳票など商業印刷の分野では、短納期での印刷や、一部ずつ内容を差し替えるバリアブルでの印刷もできるデジタルプリントが成長しています。

キヤノンでは、100m/分以上の高速でロール紙に印刷する「連帳プリンター」、定型サイズの用紙に高速印刷する「カットシートプリンター」、ポスターなどの印刷に使う「大判プリンター」など多彩なプリンターを取りそろえ、幅広いお客さまの印刷ニーズに対応しています。

多品種少部数などさまざまなニーズに対応

拡大を続けるデジタルプリントの産業印刷

食品・飲料、生活用品などのラベルやパッケージ、さらに壁紙や建築材、塗装に代わるフィルムラッピングなどの産業印刷の分野でも、デジタルプリントの利用が広がっています。キヤノンは、すでにラベルプリンターや耐久性に優れたUVgelインクで印刷する大判プリンターなどを製品化し、高い評価を得ています。今後さらにキヤノンプロダクションプリンティングとともに高品質で生産性にも優れたデジタルプリンターを市場へと送り出し、事業の拡大を図っていきます。

ラベルの印刷でも活躍するデジタルプリント

プリンティング グループの主な製品

オフィス向け複合機、ドキュメントソリューション、レーザー複合機・プリンター、インクジェットプリンター、電卓、連帳プリンター、カットシートプリンター、大判プリンターなど

正門近くに配備された高精細ネットワークカメラ

在校生も、教員も、地域住民も
安心・安全を実感できるキャンパスに

地域に親しまれる広大なキャンパス

東京・吉祥寺にある成蹊学園は、小学校から大学・大学院まで1万人以上もの在校生がワンキャンパスで勉学に励む総合学園です。吉祥寺に校舎を構えて約100年、地域社会に親しまれ、近隣の住民も気軽に出入りができる開放的な雰囲気を備えています。

地域に開かれた広大なキャンパスを守るために、成蹊学園では校舎ごとなどにいくつかの監視カメラシステムを設置していました。しかし、映像の確認場所もまちまちで、画質も悪く、入ってくる車両のナンバーも見分けることができないなど、さまざまな課題が立ちはだかっていました。

学園生活を見守り、防犯の役割を果たす

安全がつねに問われる学校という場で、課題解決のために導入されたのは、キヤノンのネットワークカメラシステムでした。使用していた監視カメラも生かして計44台のカメラ映像を一元管理。学園内のすべてのカメラ映像をリアルタイムに切り替えながら確認できるうえ、守衛をはじめとした関係者ともすぐに共有でき、異変があった時に大切な「初動」が迅速に取れるようになりました。さらに、使い勝手も大きく改善。録画のなかで動きのあった所だけを検知して映像を探し出せるため、個々のカメラ映像から膨大な時間をかけて探す必要がなくなり、見たい映像にスムーズにたどり着けるように。もちろん校門などには、高画質のネットワークカメラを配置し、不審な動きも鮮明に記録されます。そして、守衛所には、学園内のカメラ映像を映し出す多数のモニターを配備。キヤノンのテクノロジーが、在校生にとっては見守られているという安心をもたらし、また第三者には危険や犯罪を見逃さないというシグナルとなって「防犯」の役割を果たしています。

イメージング

守衛所では学園内のすべてのカメラ映像をランダムに表示

威圧感なく学園生活を送れるよう校舎の色に合わせてネットワークカメラを塗装

ジャンルを問わずハイクオリティな撮影を実現するフルサイズミラーレスカメラ「EOS R5」

イメージンググループ

豊かなくらしと文化を支えるイメージング
カメラの域を超える新たな活躍が始まっています

光学は未来社会のキーテクノロジー

カメラと映像の世界を発展させ続けてきたキヤノンの技術は、デジタル社会を支えるキーテクノロジーとして、無限大の広がりをみせています。

自動運転で重要な役割を担う車載カメラ、ロボットの「眼」、工場の自動化、VR・AR・MR…。生産現場や流通、普段の生活にいたるまで、社会課題の解決につながる映像ソリューションや人々が「幸せを感じる」新たな映像体験を、光学、センサー、画像処理、映像解析、ネットワークなどの技術をさらに発展させて提供し、社会の未来に貢献していきます。

スマートシティの基本インフラとなるネットワークカメラ

街の防犯をはじめ、交通状況や河川の監視など、社会を見守るインフラの一部となっているネットワークカメラ。いま世界各地で広がっている「スマートシティ構想」では、交通渋滞や人込み、事故や災害などを予知・予防する基本インフラとして活躍しています。

新規事業としてネットワークカメラを育ててきたキヤノンは、AIなどの先端技術をさらに磨き、スマートシティの実現に向けて取り組む一方、店舗やイベントにおけるマーケティング、生産の自動化などへソリューションを提供することで、社会のDXにも貢献していきます。

さまざまな用途や場所に対応できるネットワークカメラ

人の顔を見つけ、自動で撮影するニューコンセプトカメラ「PowerShot PICK」

「カメラはキヤノン」であり続けるために

キヤノンは祖業のカメラ事業でも、未来に向けた進化を続けています。快速・快適・高画質を追求してきたレンズ交換式カメラ「EOS」は、人気が高まるミラーレスカメラにおいてもプロフェッショナルの厳しい要求に応え、表現の可能性をさらに広げています。また、写真や動画を楽しむ人が増えるなか、人の笑顔を見つけて撮る自動撮影カメラなどのニューコンセプトカメラやクラウドフォトサービスを展開。さらに事業分野の拡大に向けてVR映像撮影システムを立ち上げるなど、いつの時代もカメラをリードする存在であり続けます。

映像制作に打ち込むプロを支える

映像制作のプロが活躍する現場でも、キヤノンは信頼のブランドです。放送用レンズをはじめとした放送機器は、世界中のテレビ局や撮影プロダクションで採用。さらに、高い機動性と操作性を誇るデジタルシネマカメラや、忠実な色再現で映像編集のこだわりに応える業務用ディスプレイなど、プロの想いを支えるラインアップをそろえています。

また、遠隔で操作できるリモートカメラは映像制作の効率化と省人化に貢献する一方、MR(→P25)やボリュメトリック映像(→P27)などの新たな映像表現の可能性も切り拓いています。

高い操作性と機動性で多様な撮影スタイルを実現するデジタルシネマカメラ

映像制作のプロの想いに応える業務用4Kディスプレイ

映像表現の幅を広げるリモートカメラ

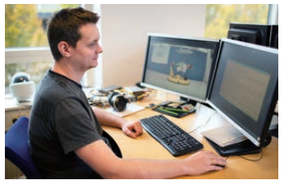
イメージンググループの主な製品

レンズ交換式デジタルカメラ、交換レンズ、ネットワークカメラ、デジタルビデオカメラ、デジタルシネマカメラ、放送機器、マルチメディアプロジェクターなど

カメラ、映像管理、映像解析のすべてを提供するキヤノン

ネットワークカメラシステムは、カメラ本体、カメラ映像をコントロール・録画するビデオ管理システム(VMS)、映像解析ソフトウエア(VCA)で構成されています。キヤノンにはこれらの要素すべてをグループ内に持つ強みがあります。カメラのみならず、リアルタイムの群衆カウントや顔認証などのVCAも提供するキヤノン。ネットワークカメラ世界大手のアクシス。1万機種以上のカメラ・デバイスと連携するVMSを展開するマイルストーンシステムズ。映像要約技術に優れるブリーフカム。そして、カメラ映像管理のクラウドサービスを行うアーキュリーズ。さらに、キヤノンの強みは他社のカメラ、VMS、VCAを自由に組み合わせられる「オープンプラットフォーム」を採用していることにあります。世界中のパートナー企業がネットワークカメラシステムを自在に構築・拡充できるようになっています。

アクシス(本拠スウェーデン)



マイルストーンシステムズ(本拠デンマーク)

ブリーフカム(本拠イスラエル)

アーキュリーズ(本拠米国)

メディカル

カテーテル検査を減らし
患者さんの負担を少なく

心臓のCT検査で求められた高精細な画像

体を精密に調べるX線CT検査。体の周りをX線を出す装置と検出する装置が回転し、体の断面を画像化するしくみですが、X線を一方向から当てるレントゲン画像だと見つけられないような病変でも、360度から撮るCTであれば見つかる可能性は高まります。CT検査では患者さんが息を止め、なるべく動かないように撮影を行います。しかし心臓はつねに動く臓器で、特に不整脈などを持つ患者さんのCT撮影が難しいという課題がありました。

16cm幅をたった1回転で撮影できるCT装置を世界で初めて※1製品化し、心臓や脳など主な臓器の短時間撮影や血液の流れの撮影をできるようにしたキヤノンメディカルシステムズ(以下、キヤノンメディカル)。従来に比べ8倍の分解能が得られる高精細CTの実用化など、世界に先がけて次々と生み出してきた技術を生かし、さらなる高精細化をめざしたのが超解像画像再構成技術「Precise IQ Engine:PIQE(ピーク)※2」です。設計段階でディープラーニングを用いたこの技術は藤田医科大学病院などの医療施設との共同開発で実用化され、心臓CT検査の新たな可能性を切り拓いています。

ディープラーニングで心臓の高精細画像を実現

40の診療科と日本最多1,376の病床を持つ藤田医科大学病院では、いまキヤノンのCT装置7台が稼働し、中部地方の基幹病院として医療提供を行っています。循環器内科においても日本有数の実績があり、PIQEの開発では画像評価など臨床視点からキヤノンメディカルと共同開発を行ってきました。

PIQEはキヤノンが誇る世界トップクラスの高精細CTの画像を教師データとして使用。1回転で、かついままでよりも高精細に心臓の血管を撮りたいというニーズに応える「超解像」の画像を実現しました。血管内のステントの状態が鮮明に見え、2.5mm以下のステントの見え方も向上し、カテーテル検査をしなくても診断できる可能性が高くなりました。患者さんの負担や不安を減らせる技術としてPIQEは今後、世界中での活躍が期待されています。

※1　2007年当時、キヤノンメディカル調べ
※2　画像再構成処理の設計段階でAI技術を用いており、本システム自体に自己学習機能は搭載していません

藤田医科大学病院におけるPIQE
搭載CTによる心臓検査

低被ばくなど患者さんの負担の軽減も追求

ディープラーニング※を活用しノイズを低減。静音化も実現したMRI

メディカルグループ

患者さん、医療機関とともに「いのち」と向き合い医療に貢献する新しい価値を次々と生み出しています

さらに高まるヘルスケアへのニーズ

世界的なパンデミックの発生や高齢化の進展などにともない、健康増進や病気の予防をはじめとしたヘルスケアへのニーズは、これまで以上に高まっています。医療従事者への負担も増すなか、キヤノンは、医療機関や大学など国内外のさまざまなパートナーと連携しながら、最先端の技術でより質の高い医療の実現に貢献する医療ソリューションを、グループ一丸となって創出しています。

キヤノンメディカルを核に事業展開

キヤノンはいま、高度化する医療に対応するために「画像診断」「ヘルスケアIT」「体外診断」の3つの領域に注力し、事業の拡大に取り組んでいます。その中心的役割を担うのが、グループ会社キヤノンメディカルシステムズ(以下、キヤノンメディカル)です。尊い命を守る医療に貢献したいという想いを込めた「Made for Life」を経営スローガンに、実際に診断や治療を行う臨床現場での課題を技術で解決し、患者さんにとっても医療従事者にとっても価値のあるソリューションを提供しています。

高度な治療にも活躍する「画像診断装置」

現代の高度な医療は画像診断なしに考えることはできません。CT(コンピューター断層撮影)、MRI(磁気共鳴画像)、超音波診断装置、X線診断装置などの画像診断装置において、キヤノンメディカルは疾病の早期発見の期待に応えています。

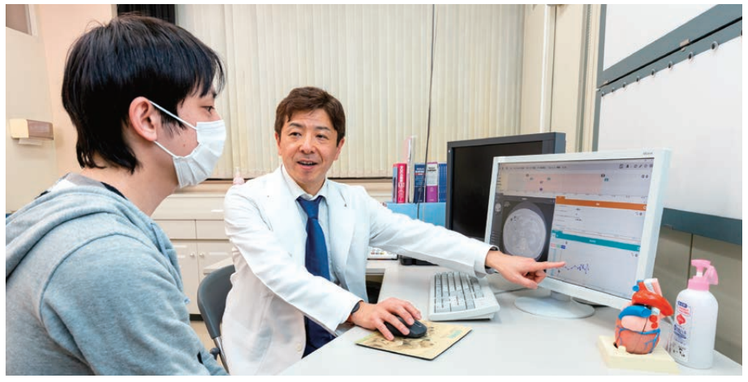
ディープラーニング※を用いて設計した画像のノイズ除去技術を積極的にCTやMRI、PET-CTに搭載。画質向上の実現を図りながら、大幅な被ばく低減や撮影時間の短縮を可能にし、患者さんの検査負担を軽減するとともに、より効率の高い医療を実現しています。

日常診療から精密検査まで幅広く利用される超音波診断装置

感染症診療のみならず遠隔医療への貢献も期待される移動式コンテナCT

医療のDXを進める「ヘルスケアIT」

医療の世界でも期待されるDXに向けて、患者さんの診断画像や投薬履歴などのさまざまな情報を収集・統合・解析・加工して提供する「ヘルスケアIT」を展開。さらに、臨床で集められた画像データや、日々の体温や血圧などの非画像データをもとに、AIを活用した読影診断※、診断支援などのソリューションをめざし、的確な診断、治療方針の決定に貢献します。



ヘルスケアITでは診断画像をはじめ、あらゆるデータを統合し表示

次世代のフォトンカウンティングCTの早期実用化に注力

レドレン・テクノロジーズにおける研究開発

人体を透過するX線の光の粒一つひとつ(フォトン)を直接電気信号へと変換できるフォトンカウンティングCTは、物質をカラーで識別したり圧倒的な低被ばくを実現するなど、大きなイノベーションが期待される次世代CTです。キヤノンはフォトン検出器の先進技術を持つカナダのレドレン・テクノロジーズをグループに迎えて開発を加速し、国立がん研究センターと臨床での実証や検証を進め、早期の製品化をめざしています。

新型コロナウイルスを迅速に検出する抗原定性検査システム

新型コロナウイルス検査システムもいち早く提供

「体外診断」においては、いち早く新型コロナウイルスにも対応する感染症検査システムを実用化。検査試薬などの検査装置周辺領域へ本格的に参入し、臨床検査分野でのトータルソリューションプロバイダーをめざしています。また、短時間で大量の検体を検査できる臨床化学自動分析装置なども製品化しています。

※ 開発段階でAI技術を用いており、本システムに自己学習機能は搭載していません

新型コロナウイルスRNA検出試薬

メディカルグループの主な製品

CT装置、超音波診断装置、X線診断装置、MRI装置、検体検査装置、デジタルラジオグラフィ、眼科機器など

インダストリアル

世界で沸騰する需要に応える
ニューノーマル時代のサービスが広がっています

コロナ禍でも求められるスピーディな顧客サポート

2021年に起こった深刻な半導体不足は、モノ不足を引き起こし、世界的なインフレの原因にもなりました。スマートフォンやパソコン、自動車、さらにビルや高速道路、通信などの社会インフラにいたるまで、いまや半導体なしに私たちの生活は成り立ちません。IoTや5Gなどの高速通信の進展によって、世界中で需要の高まりが予想されるなか、半導体メーカーは増産に向け、日々生産性の向上に取り組んでいます。

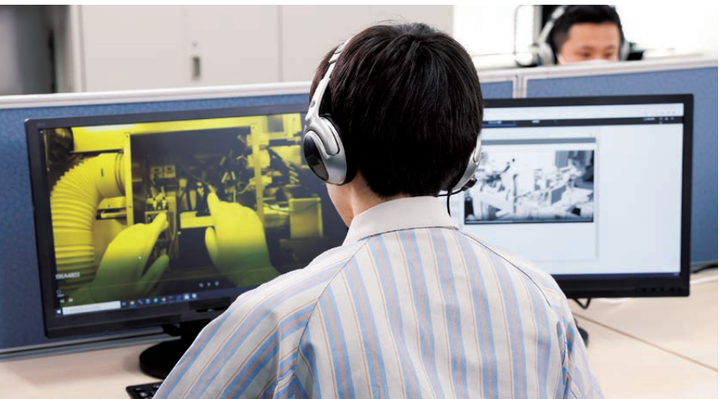
ナノメートル単位の線幅を持つ電気回路を半導体に焼き付ける半導体露光装置は、半導体の生産プロセスで最も重要な装置の一つで、エンジニアによる定期的なメンテナンスやチューニングなどの繊細なサポートが必要です。しかし、コロナ禍においては、エンジニアが迅速に現場へ行くことは難しく、生産性は上がるどころか、故障や長時間停止の恐れもあります。

XRデバイスを使って現地とリアルタイムで情報を共有

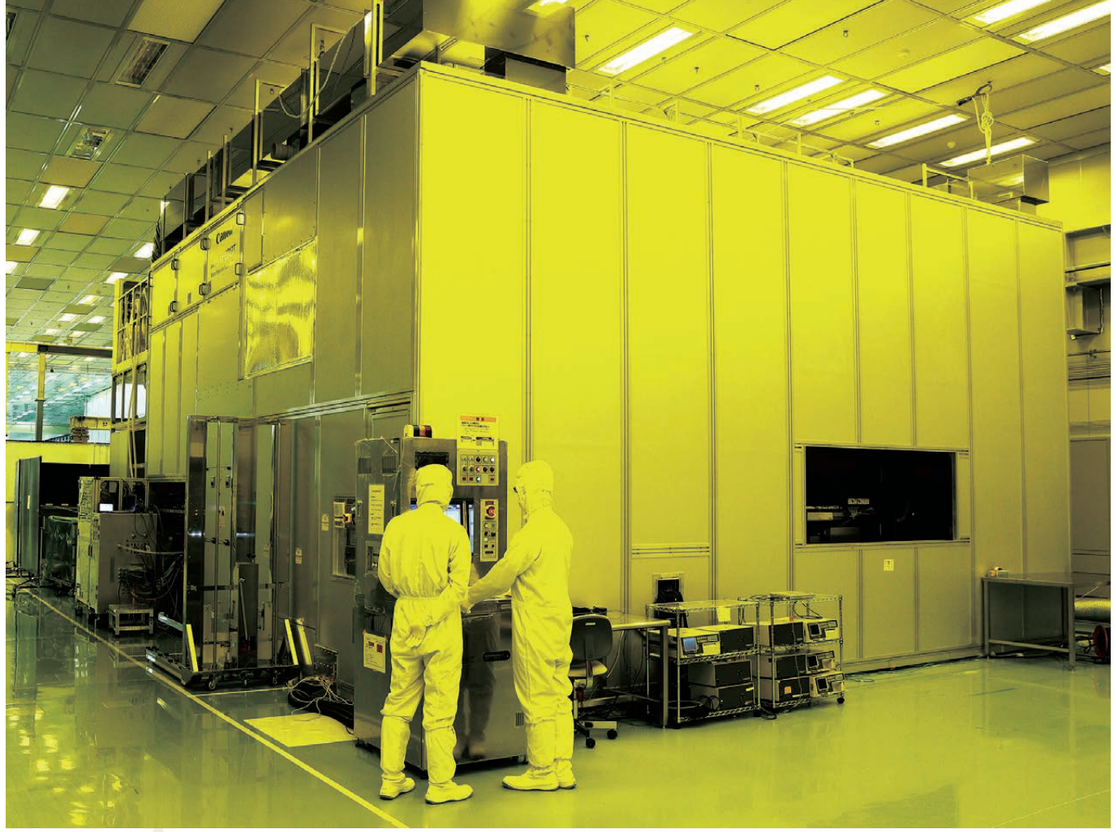
半導体露光装置で多くの半導体メーカーのお客さまを持つキヤノンは、この課題への対応として、XRデバイスを使用する次世代遠隔サポートを始めました。半導体製造現場にいるお客さま先の作業者の方にXRデバイスを装着してもらい、視野と音声をリアルタイムにリモートでキヤノンのエンジニアと共有。エンジニアから、必要な作業の手順書や部品の図面などが送信され、XRデバイス上に情報をホログラムで映し出し、作業のアドバイスを行います。XRデバイスを装着することで、現場では作業者がハンズフリーとなり、両手で安全かつ正確な作業ができるようになりました。さらに、作業の様子は録画して、修理の振り返りやエンジニア育成の教材として使用。ニューノーマル時代を先取りするサービスとして、お客さまに活用されています。

※nm：ナノメートル＝100万分の1mm

現場からの映像を確認しながら、必要な手順書などをXRデバイスに送信し、対応方法についてアドバイス



XRデバイスを装着し、リモートのエンジニアと現場の様子を共有しながら、ホログラムで映された手順書などを見て作業



ガラス基板にディスプレイの回路を焼き付けるフラットパネルディスプレイ(FPD)露光装置

インダストリアルグループ

デジタル技術の高度化に向けて一歩先の生産性を

社会を支える半導体露光装置

AI、IoT、自動運転、ロボット、宇宙開発など、未来を担う技術は微細な電気回路を半導体につくり込む半導体露光装置なしに語ることはできません。

パワーデバイスやイメージセンサーなど
幅広い用途に用いられるi線露光装置

キヤノンは1970年に日本で初めての半導体露光装置を発売して以来、社会が半導体に求める進化と半導体メーカーの生産性向上を確かめながら製品を送り出してきました。ロジック、メモリーといった代表的な半導体デバイスから5Gデバイス、車載向けパワーデバイスなどさまざまな種類の半導体生産に用いられている、i線(水銀)やKrF(フッ化クリプトン)を光源とする露光装置を品質の高いサービスとともにお届けしています。

美しいディスプレイをつくり出すFPD露光装置

液晶や有機ELといったディスプレイの生産にもキヤノンは欠かせない存在です。大型のガラス基板に回路を露光するフラットパネルディスプレイ(FPD)露光装置は、スマートフォンのみならず4K・8Kテレビなど薄型かつ大型で高精細なディスプレイパネルの生産に貢献しています。

有機ELディスプレイの実用化に貢献

漆黒の黒色まで表現でき、省電力、薄型・軽量という点でも優れる有機ELディスプレイ。スマートフォンやタブレット、テレビでも主流のディスプレイとなりつつあります。しかし、優れた特性がありながら、つくることが難しく、なかなか生産が始まらないという時代がありました。その量産装置を世界で初めて製品化したのがキヤノントッキです。それ以来、世界の量産をリードする存在として有機ELディスプレイの普及を支え続け、いま新しい製造方式や材料の開発にも力を注いでいます。

キヤノントッキが生産する有機ELディスプレイ製造装置

真空下でナノレベルの成膜を行うキヤノンアネルバのスパッタリング装置

新たなイノベーションをグループ一体で

キヤノンはインダストリアルの装置を手がけるグループ会社との連携を強化し、事業の拡大を図っています。キヤノントッキに加えて、ハードディスクやDRAMなどの金属薄膜を真空成膜技術で形成するスパッタリング装置などを手がけるキヤノンアネルバや、ダイボンダーをはじめとした自動化・省力化機器などを生産するキヤノンマシナリーなどがお互いの特徴ある技術を生かし、新しい時代のものづくりを支えるイノベーションの創出をめざしています。

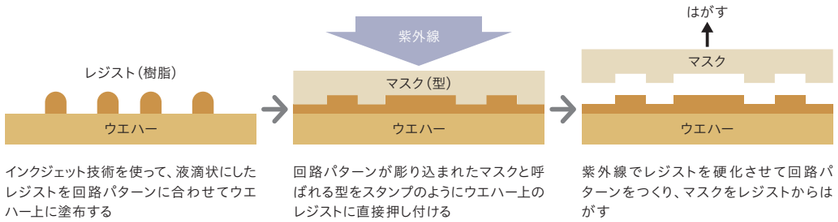
半導体チップの固定に使われるキヤノンマシナリーのダイボンダー

インダストリアルグループの主な製品

半導体露光装置、FPD露光装置、有機ELディスプレイ製造装置、真空薄膜形成装置、ダイボンダー、ハンディターミナル、ドキュメントスキャナーなど

最先端チップを低コストで実現するナノインプリントリソグラフィ

回路線幅の微細化が絶えず進んできた半導体。20nm以下という最先端の線幅を実現するには、巨額の設備が必要になります。この課題の解決を期待されているのが、キヤノンのナノインプリントリソグラフィです。ナノ単位の回路パターンをハンコのように半導体に押し当て、微細な回路を形成。低コストとともに圧倒的な省エネルギーを実現します。すでに、主要性能は量産レベルに達し、現在、キヤノンは半導体メーカーとともに量産適用の検証を行っています。また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業に採択され、先端ロジック製造工程への適用に向けた開発も進めています。

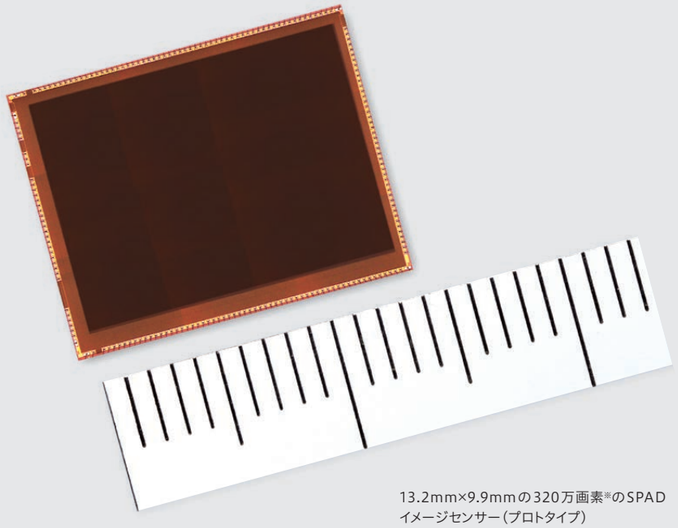


インクジェット技術を使って、液滴状にしたレジストを回路パターンに合わせてウエハー上に塗布する

回路パターンが彫り込まれたマスクと呼ばれる型をスタンプのようにウエハー上のレジストに直接押し付ける

紫外線でレジストを硬化させて回路パターンをつくり、マスクをレジストからはがす

技術によるイノベーションが未来を切り拓いていきます



13.2mm×9.9mmの320万画素※のSPADイメージセンサー（プロトタイプ）
※有効画素のサイズ

世界最高※1の320万画素SPADイメージセンサーを開発

画素に入ってきた光の粒一つひとつ（フォトン）を数えることができるSPADイメージセンサー。キヤノンは暗闇でもフルHDを超えるカラー撮影が可能な320万画素のSPADセンサーの開発に成功し、星の出ていない闇夜より暗い環境においても動画撮影を可能にしました。100ピコ秒※2という非常に短い時間で情報を処理することができるため、光の粒のような、高速に動くものの動きをとらえることができます。

　このブレークスルーにより高速な3D空間情報の取得が可能になり、車の自動運転などにとどまらず、これまでの常識にはない未知の製品やサービスが生まれる可能性も広げています。

くわしくは
こちらへ

※1　2021年12月14日現在、キヤノン調べ
※2　100ピコ秒＝100億分の1秒

現実空間にCGを実物大で表示

光学技術と映像技術を結集したHMD

現実とCGを融合するMRシステム

CGだけで表現されるVR（Virtual Reality＝仮想現実）から一歩踏み出して、現実世界とCG映像を違和感なく融合し、現実を見ているような臨場感を提供するのがMR（Mixed Reality＝複合現実）システムです。

　ヘッドマウントディスプレイ（HMD）に搭載されたカメラで撮る映像と、3D-CADなどからつくられたCG映像をユーザーの動きに追従する位置合わせ技術を使って合成し、圧倒的な臨場感を実現。自由な視点から見る映像を体験でき、開発やマーケティングのツールとして活躍しています。

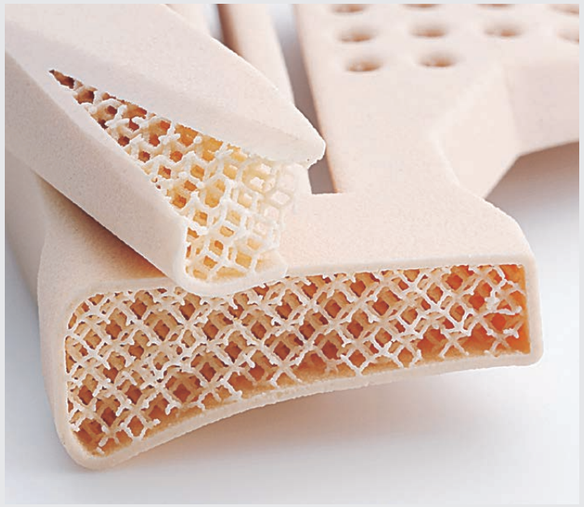
くわしくは
こちらへ

3Dプリンター用セラミックス材料

耐熱、絶縁、耐摩耗などに優れるセラミックスは、熱を加え焼き固めてつくられますが、複雑な形状は焼き固める時の「縮み」を緻密にコントロールする必要があり、製作は困難を極めます。

　キヤノンは長年培ってきた材料技術、粉体制御技術などを応用し、縮みを抑える3Dプリンター用材料を開発。複雑かつ精密なセラミックス部品の作製を実現しました。自動車や医療、航空機をはじめとした、幅広い分野での活用が期待されています。

くわしくは
こちらへ



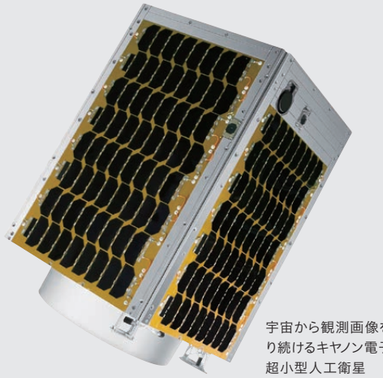
複雑な格子構造をセラミックスで実現

宇宙ビジネスへの挑戦

ロケットや人工衛星の開発・生産や打ち上げから、通信、衛星画像・位置情報サービスなど、宇宙ビジネスはこれからの成長が見込まれています。

　グループ会社キヤノン電子は、精密機械技術や光学技術を生かし、宇宙ビジネスへ進出。すでに自社開発・生産の超小型人工衛星2基を宇宙へと送り出しています。さらに、ロケット打ち上げ事業会社スペースワンを設立し、日本初の民間ロケット発射場を建設。人工衛星の開発・生産から打ち上げまでを担う総合宇宙ビジネスへと着実に歩みを進めています。

くわしくは
こちらへ



宇宙から観測画像を送り続けるキヤノン電子の超小型人工衛星

地上約500kmの上空から撮影したドバイ近郊の港

新規事業の創出

ボリュメトリックビデオシステム

空間全体を3Dデータ化し、自由な視点からの映像が楽しめるように。スポーツの中継やプロモーション映像などに幅広く新しい映像体験を提供しています。

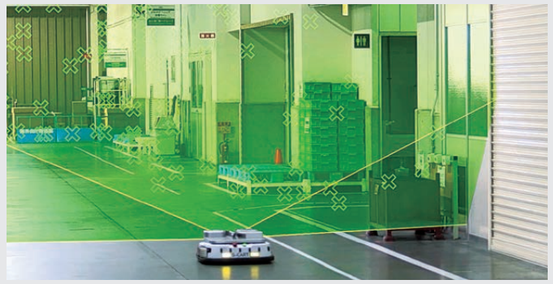
くわしくは
こちらへ

Visual SLAM※技術

無人搬送車(AGV)や自律走行搬送ロボット(AMR)の「眼」となる映像解析技術。工場や倉庫以外の場所でのロボットの活躍も後押ししていきます。

※Simultaneous Localization and Mappingの略

くわしくは
こちらへ



インフラ点検ソリューション

デジタルカメラの画像から、ひび割れをはじめとした変状を検知するAIにより、橋梁やトンネルといったコンクリート構造物の点検を支援するソリューションビジネスを展開しています。

くわしくは
こちらへ

抗原定性検査システム

4分から15分という短時間で新型コロナウイルスを検出。偽陽性も少ない抗原検査として患者さんへの的確な診療と医療従事者の負担軽減の両立を実現しています。

くわしくは
こちらへ

顔認証技術

高い場所から見下ろす映像でも顔の識別・判定が可能となるAI顔認証を開発。独自の機械学習技術とデータ開発技術により、正面以外の向きの顔や、マスクやサングラス着用の顔に対しても、高精度の照合・判定が可能です。

くわしくは
こちらへ

すべてのバリューチェーンを通して
まったく新しい価値創造を

キヤノンは研究開発から材料調達、生産、販売・マーケティングへと流れる
「バリューチェーン」によって
生活を豊かにする新しい価値を社会へと送り出しています。
持続可能な社会の実現に向けて
ステークホルダーのみなさまからの期待に応える一方で
企業の社会的責任を果たすために力を入れるのは
「新たな価値創造、社会課題の解決」「地球環境の保護・保全」
「人と社会への配慮」という3つのマテリアリティ。
雇用や納税といった社会が求める使命を果たしつつ
グローバルに企業活動を展開しています。

RESEARCH & DEVELOPMENT

業界をリードするコアコンピタンス技術と、商品化の基礎となる価値創造基盤技術を
多様に組み合わせて事業を生み出し発展してきたキヤノン。
これからも、グループに新しく加わった技術や先進のIT技術を取り込みながら
一歩先を行くイノベーションを起こし続けます。

技術優先のDNA

「世界一のカメラをつくりたい」とスタートを切ったキヤノン。
技術で差別化を実現するという企業DNAは脈々と引き継がれています。

コアコンピタンスマネジメント

製品を差別化するコアコンピタンス技術、その基礎となる光学・電気・化学などの基盤要素技術。
生産技術やシミュレーション技術など、商品化の支えとなる価値創造基盤技術を土台に
現行事業を強化し、新たな社会課題を解決する事業を創出する体制を整えています。

オープンイノベーション

長い期間が必要なシーズの育成、保有技術を生かした社会課題の解決など
さまざまな場面でオープンイノベーションやアライアンスの活用を推進しています。
多様な技術と人材のコラボレーションにより、未来の技術をつくり出していきます。

くわしくは
テクノロジーサイトへ

SPADイメージセンサーの開発

時代の最先端を走るイメージセンサーを次々に開発

自社開発・生産の技術力を強みに多画素化や高感度化などを実現。歪みのない動画撮影を可能にしたCMOSイメージセンサーや、社会を変えると注目されるSPADイメージセンサー(→P25)をいち早く開発するなど、つねに最先端を切り拓いています。

スマートシティやスマートファクトリーの実現に向けローカル5Gラボを開設

高速・大容量、低遅延、同時多接続という5Gの特徴を生かし、スマートシティやスマートファクトリー、次世代イメージングの実現に向け、キヤノンは5Gラボを開設。5Gに対応する製品・システムの技術開発や、ユースケースを想定した通信性能の事前評価・検証を行っています。

ローカル5Gラボ

高発色インク材料の研究

AIを使いキーマテリアルを開発する材料インフォマティクス

色材や光学ガラスをはじめ、キヤノンが研究を重ねてきた材料技術のデータを「材料バンク」に蓄積。必要な機能を持った材料をAIで導き出す材料インフォマティクスを活用し、事業の競争力を高めるキーマテリアルを開発しています。

マイiPS細胞に最適な製造プロセスを研究

iPS細胞研究財団と共同研究を推進

再生医療分野への貢献が期待されるiPS細胞を使った医療の実現に向けて、キヤノンは公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団と共同研究を行っています。ものづくりで培った品質管理・製造技術などを活用して、患者さん自身の細胞からiPS細胞を製造するプロセスを研究。免疫拒絶反応などのリスクを減らすとともに、製造の低コスト化と期間短縮をめざします。

※キヤノンは2019年に国立大学法人京都大学iPS細胞研究所との共同研究を開始。2020年に公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団が発足し、本研究は同財団に継承

MANUFACTURING & QUALITY

くわしくは
ものづくり
サイトへ

くわしくは
品質サイトへ

自動化や内製化をさらに徹底する一方で
卓越した技能や技術を持つ人材の育成や生産現場の創意工夫を推し進め、究極のものづくりを追求。
お客さまの一層の満足のため、製品ライフサイクル全体で品質の向上にも努めています。

マザー工場の確立

世界中の工場の手本となるのがマザー工場です。
開発、設計、生産技術、製造の各部門が一体となって自動化や内製化をはじめ
ものづくりのあり方を日々進化させています。

知恵テク

徹底的にムダ取りした生産設備を自ら考え、自らつくります。
治具や工具のみならず、高価な装置の代替設備もつくるキヤノンの現場力の象徴です。

ノークレーム・ノートラブル

1964年に初めて掲げられ、いまも変わらないキヤノン品質の基本理念です。
その実現のため、製品・サービスの安全・安心・満足の追求、
独自の品質マネジメントシステムの確立など、さらなる品質の向上に努めています。

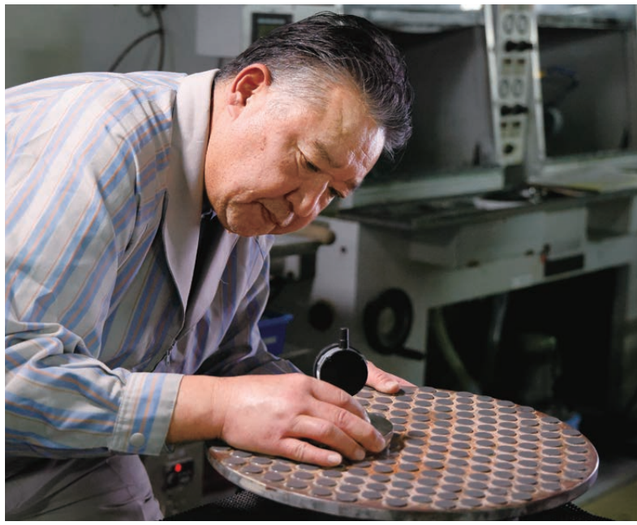
製品やサービスを効率よく迅速に世界中に届ける世界最適地生産

社会・経済情勢の変化に合わせて国や地域ごとに異なるインフラ状況、コスト、税制、物流手段、労働力などを総合的に判断。災害時などでもスピーディかつ的確な対処ができる、最も合理的な拠点で生産を行います。

インクジェットプリンターの生産を担うキヤノンハイテクタイランド

ものづくりを磨いて継承する名匠・マイスター

卓越したものづくりの技能を持つ人を「名匠」、幅広い技能と知識で製品の組立や部品加工の進化に貢献する人を「マイスター」として認定。次の世代に「技」を伝えるとともに、そのノウハウは自動化などものづくりの進化にも生かされています。



レンズ研磨の名匠

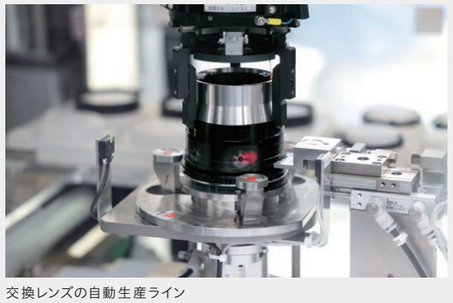
キヤノンクオリティのための妥協ない品質試験

安全・安心・満足というキヤノン製品が携えるべき「キヤノンクオリティ」を維持・向上するために、公的規格や関連法規に対応した試験設備を完備。公的試験を社内で実施できる各種認定を取得して、厳しい品質試験・品質管理を行っています。

ISO/IEC 17025(試験所認定)の認定を受け、第三者機関としての試験が可能な電波暗室

内製化や完全自動化をさらに推進

ものづくりへのこだわりはキヤノンの大きな強みとなっています。キーデバイスやキーパーツの内製にとどまらず、生産や検査に使う装置までも内製化を推進。自動化においては、組立の自動化を想定した製品設計とする一方で、製品組立、検査、梱包まで自社開発・生産した装置で行う、高度な自動化を実現しています。



交換レンズの自動生産ライン

MARKETING

キヤノン製品・サービスを世界のすみずみまでお届けしている各地のマーケティング会社。
デジタルマーケティング時代に合わせてお客さまとのつながりを強化しながら
BtoBビジネスの拡大を図る変革を推し進めています。

AMERICAS

北米、中南米地域のマーケティングを統括するキヤノンUSA。

コロナ禍において、ハイブリッドワークで高まるプリント需要に対応するために、組織を再編して販売強化を図るとともに、動画配信需要の高まりをとらえ、「EOS R SYSTEM」「CINEMA EOS SYSTEM」の拡販を行っています。また、商業印刷においては米国全州をカバーする高品質なサービス体制を築き、お客さまから高い評価を獲得。世界最大級のデジタル見本市「CES 2022」では、ハイブリッドワークやバーチャルリアリティに対する提案を行うことで革新性を幅広く訴求し、新たなビジネスの創出に挑戦しています。

VRレンズを使用したバーチャルリアリティ表現を提案した「CES 2022」

くわしくは
キヤノンUSA
サイトへ

EMEA

欧州、中東、アフリカのEMEA地域、約120の国・地域でビジネスを展開するキヤノンヨーロッパ。

商業印刷では、対面とオンラインを組み合わせた販売支援ハイブリッドプラットフォームを構築。お客さまやパートナーのビジネスの成長をサポートするために、実践的なアドバイスやデモンストレーション、最新の市場動向の情報を提供しています。

さらに、ドバイ万博やコモンウェルスゲームズへの協賛を通じて、イメージングやプリンティングに関する幅広い技術と製品、ソリューションの訴求を図っています。

商業印刷向けプロダクションプリンターの新製品発表会

くわしくは
キヤノンヨーロッパ
サイトへ

ライブコマースなどのストリーミングサービスに対する需要の高まりを受け、「China P&E」で紹介したライブ配信ソリューション

くわしくは
キヤノン中国
サイトへ

くわしくは
キヤノン
マーケティング
アジアサイトへ

ASIA & OCEANIA

中国やインドをはじめ、南アジア、東南アジアまでを統括するキヤノン中国とキヤノンマーケティングアジア。

成長が続く中国においては、市場の特性や商習慣に合わせた事業をさらに強化しています。一方、韓国ではBtoBとBtoCを兼ね備えたブランドイメージを獲得するために、事務機事業とカメラ販売事業を統合したキヤノンコリアを発足。各地で組織の再編成や販売チャネルの最適化などを進め、ブランド力の向上と販売力の強化に取り組んでいます。

世界基準の運営品質を備え、お客さまのIT機器を安心・安全な環境で守る西東京データセンター

くわしくは
キヤノン
マーケティング
ジャパン
グループサイトへ

JAPAN

日本国内を中心にマーケティング活動を行うキヤノンマーケティングジャパングループ。

「社会・お客さまの課題をICTと人の力で解決するプロフェッショナルな企業グループ」をめざすという2025年ビジョンを掲げています。長年培ったキヤノンのイメージング技術と時代に先んじる独自のIT、広範で強固な顧客基盤といった強みを生かし、デジタルドキュメントサービスや映像ソリューション、IT支援やセキュリティサービスなど、お客さまに最適なソリューションを提供することで、社会課題の解決に貢献していきます。

SUSTAINABILITY

くわしくは
サステナビリティ
サイトへ

キヤノンは企業理念「共生」のもと、積極的にサステナビリティ活動を推進してきました。
持続可能な社会の実現に向けて、SDGsなどへの関心が高まるなか
2021年にキヤノンはサステナビリティ推進本部を設置。
グループ全体で活動のさらなる強化を図っています。

サステナビリティへのアプローチ

キヤノンは、テクノロジーとイノベーションの力で新たな価値を創造し
世界初の技術、世界一の製品・サービスを提供するとともに、社会課題の解決にも貢献していきます。
また、すべての製品ライフサイクルにおいて、より多くの価値を
より少ない資源で提供することで、豊かな生活と地球環境の両立をめざします。
キヤノンは、これからもすべての企業活動を通じて
持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に進めていきます。

2050年CO_2排出量ネットゼロ

キヤノンは、2050年にCO_2排出量ネットゼロをめざし、開発・設計から、生産、輸送、使用、リサイクルにいたる製品ライフサイクル全体でCO_2排出量の削減に取り組んでいます。あらゆるステージにおいて省エネルギー化に取り組むとともに、再生可能エネルギーについても、世界各国・地域の普及状況や経済合理性などを考慮しながら活用を進めています。

キヤノンプロダクションプリンティング（オランダ）の社屋に設置されているソーラーパネル

未来ある若者の創造力を育てる教育支援プロジェクト

イメージングのリーディングカンパニーとして、キヤノンは、これからの社会を切り拓く若者の感性や技能を磨く活動に力を入れています。世界各地で写真・映像撮影を体験するワークショップを開催するほか、アフリカでは撮影や印刷の職業をめざす若者に技能習得の支援を行っています。

ナイロビ近郊のスラムで、女性向けの映画制作 ワークショップを開催

米国・フリーア美術館から大阪の祥雲寺に里帰りした俵屋宗達筆「松島図屏風」の高精細複製品※

貴重な日本の文化財を未来に継承する「綴プロジェクト」

キヤノンの最先端技術と京都の伝統工芸の技を融合し、国内外に所蔵される貴重な日本の文化財の高精細複製品を制作。一般公開や教育の場などで活用することで、オリジナルの文化財を守りながら日本文化を未来へと継承する社会貢献活動「綴プロジェクト」を特定非営利活動法人京都文化協会とともに展開しています。

※ Facsimiles of works in the collection of the Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution, Washington, D.C. : Gift of Charles Lang Freer, F1906.231, F1906.232.

キヤノングループの環境活動のシンボル「キヤノンエコテクノパーク」

トナー・インクカートリッジの自動リサイクルや、回収した複合機を新品同様に蘇らせるリマニュファクチュアリングといった高度な資源循環に取り組んでいます。併設する体験型ショールームと連動した工場見学のほか、小学生に向けたオンライン環境授業も行っています。

キヤノンエコテクノパーク

CANON DASHBOARD

2021年12月31日時点

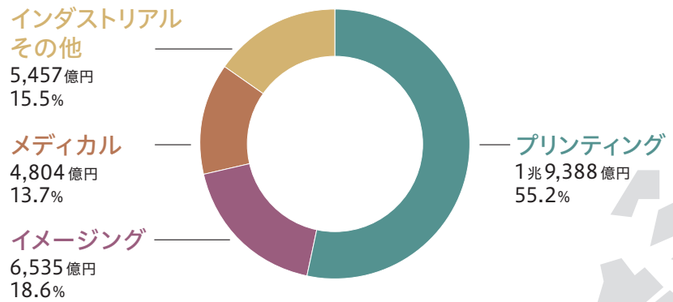
売上高（2021年）

3兆5,134億円

純利益（2021年）

2,147億円

ビジネスユニット別売上高※2（2021年）



従業員数

184,034人

連結子会社数

329社

EUROPE※1

売上高
8,949億円 25.5%

従業員数
22,166人

JAPAN

売上高
8,304億円 23.6%

従業員数
70,924人

ASIA & OCEANIA

売上高
8,192億円 23.3%

従業員数
75,681人

AMERICAS

売上高
9,688億円 27.6%

従業員数
15,263人

キヤノンヨーロッパ
キヤノン中国
キヤノン本社
キヤノンマーケティングジャパン
キヤノンUSA
キヤノンシンガポール
キヤノンオーストラリア

主要拠点

- ■ 研究開発・ソフトウエア開発
- ▲ 製造
- ● 販売
- ◆ その他

※1 キヤノンの公表データではEMEA（ヨーロッパ、中東、アフリカ地域）を欧州としています
※2 各ビジネスユニットの連結売上高には、ユニット間消去-3.0%があるため、総計100%になっていません

キヤノン株式会社
〒146-8501　東京都大田区下丸子3-30-2　global.canon
©Canon Inc. 2022
PUB.AJP046 0622